

主 題：救世主が来られる  
聖書箇所：創世記 3章15節

今日は、創世記3章のところから神のおことばをともに学びたいと思います。

創世記3章には非常に悲しい出来事が記されています。それは神がお造りになった最初の人間、私たちの先祖であるアダムとエバが神に逆らうという大変大きな罪を犯すことです。そのことが記されているこの箇所から、特に、15節のみことばを学びます。その前の14節に、罪を犯した者たちに、また、誘惑を為した者たちに対する神ののろいのことばが記されています。蛇に対して、蛇を用いたサタンに対して、そして、アダムとエバに対するのろいのことばです。罪には必ずその結果が伴います。そのことを私たちはこの中からも教えられます。3：15のみことばはこのように教えています。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく。」と。私たちは今からこのみことばを学んで行きます。というのは、このみことばはこのような悲しい出来事の中にあっても、神のすばらしい約束を私たちに与えてくれているからです。このみことばを学ぶ前に、ここで神がのろわれたサタンの存在について次のことを知っておくことが必要です。

☆サタンについて

1. サタン

聖書の中にこの「サタン」ということばは52回出て来ます。これは「敵対するもの、反対するもの」という意味をもっています。だれに敵対するのかが明らかです。神に敵対するもの、神に反対するもの、それがサタンです。神の働きに反対するのです。神の働きに逆らい続けて行くのです。

2. サタンの罪

このサタンは神がお造りになったものの中で最も美しく完全なものであったといわれます。すばらしかったこのサタンが神に逆らうという大きな罪を犯すのです。その罪に関して、イザヤが私たちに次のことを教えています。イザヤ書14章12-14節「:12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。」、まず、この人物のことを「暁の子、明けの明星」と呼んでいます。「明けの明星」ということばはラテン語で「ルシファー」と言います。これがサタンの墮落前の名前です。このルシファーの罪が13-14節に出ています。皆さんに注目していただきたいのは、この箇所に「私」ということばが繰り返し出ていることです。彼が考えたのは神のことではありませんでした。被造物ですから当然、創造主なる神のことを考えて歩むべきところが、神のことではなく自分のことを考えました。そのことがこの箇所に出ています。残念ながら、日本語の聖書には明確に出ていないのですが、見てください。「:13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。:14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』」。

- ・ **一番目** = 『私は天に上ろう。』、これが最初の「私」です。これは「私は神と同じ存在になろう」ということです。そのように願ったのです。これがサタンの最初の罪です。
- ・ **二番目** = 「神の星々のはるか上に」、「神」の前に「私が」ということばがあります。「私が神の星々のはるか上に私の王座を上げ、」となります。この「星々」とは天使たちのことです。ですから、ルシファーはこれまで神からの命令を天使たちに伝えるという働きをしていたのです。しかし、このときから彼は神の命令を伝えるのではなく、自分の思いを伝える、自分の思い通りに天使たちを支配しようとするのです。
- ・ **三番目** = 「北の果てにある会合の山にすわろう。」、ここも初めに「私が」ということばがあります。この「会合の山」とは神の支配の中心を示すことばです。ルシファーがしようとしたことは、神からその支配権を奪って、自分がすべてのものを支配することでした。このような罪を犯すのです。
- ・ **四番目** = 「密雲の頂に上り、」とあります。ここも「私は密雲の頂に上り、」です。「密雲」は比喩的に使われていることばです。この「雲」は旧約聖書では神の栄光に関連して使われています。ですから、ルシファーは神以上の栄光を求めたのです。
- ・ **五番目** = 「いと高き方のようになろう。」、ここも「私はいと高き方のようになろう。」です。神のようになろうとサタンは願うのです。彼は当然、神の力、権威を認めていました。神がひとりであることも知っています。彼はその権威に服従しないで、それを自分自身のものにしようとしたのです。ルシファーは創造主なる神に代わって、自分自身が神になろうとしたのです。だから、彼は「偽りの神」

なのです。あらゆる崇拜の対象の背後にいるのはこの「偽りの神」です。彼の目的は真の神でないものを崇拜するようにと人々を惑わし続けることです。

### 3. サタンの野望

サタンが望んでいること、彼の野望はどういうものでしょう？彼は創造主ではなく、私たちと同じ被造物でありながら、自らを創造主とするという非常に恐ろしい罪を犯したのです。彼が神として君臨するためには、当然、多くのものが彼に従うことを願うわけで、それで彼は天使たちの間にも、人々の間にも誘惑を為すのです。

#### 1) 天使たちへの惑わし

このサタンが罪を犯したために天から追放されるときに、天使たちの三分の一を率いていったとみことばは教えます。どれだけの数か分かりませんが、大変な数であることをみことばはこのように示しています。ヘブル12：22には「無数の御使いたち」とあります。黙示録5：11「多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。」と記されています。大変な数の天使が存在するのです。詩篇68：17「神のいくさ車は幾千万と数知れず、」と記されています。ですから、はっきりした数は分からないけれど、非常にたくさんの天使たちが存在するということです。この天使たちの中に、無数の墮落した天使たち、彼らのことを「悪霊」と呼びますが、それと墮落していない聖い天使たちが存在するのです。この聖い天使たちは今も神とともにいて、造られたときの目的を果たしています。神に仕えているのです。しかし、墮落した天使たちは、彼らの主人である「サタン」の目的を果たすために働いています。確かに、サタンは天使たちの間で働き、彼らを惑わしたのです。三分の一が従ったわけです。

#### 2) 人への惑わし

当然、その働きは私たち人間の間にも為されました。サタンはアダムとエバを誘惑して神に逆らわせ、自分に従うものとなることを考えて誘惑したのです。そして、皆さんのよくご存じのように、彼らは創造主なる神の代わりに、この偽りの神であるサタンに従うという大きな罪を犯すのです。その結果、私たちは生まれながらにサタンに従うものとなり、そして、生き、最後にはサタンに約束された永遠のさばきを共有するものとなりました。この世に生まれてからこのかた、私たちが日々していることはサタンを喜ばせることです。残念ながら、生まれながらの人間は神を喜ばせることはできません。私たちは罪に罪を重ね、私たちの主人であるサタンを喜ばせて来たのです。その結果、私たちはサタンに約束された永遠のさばき、地獄を共有するものとなってしまったのです。

考えてください。この創世記3章、サタンがアダムとエバを誘惑します。そして、彼らはその誘惑に負けて罪を犯しました。そのときサタンはどのようなことを思ったでしょう？多くの天使たちを惑わし彼らを墮落させ、そして、最初の人類、私たちの先祖であるアダムとエバを誘惑し、彼らを罪を犯すようにと導いていった。そして、実際に、彼らがその選択をして罪を犯したときに、恐らく、サタンは歓喜の声を挙げたに違いありません。「やった！天使たちも人間も私に仕え、私を敬うものになった、彼らは私を神として崇拜し、私に従うものになった。」と間違いなくサタンは勝ち誇ったに違いありません。そのときです。そのときに、主なる神はサタンに対してこのように言われたのです。3：15のみことばです。主なる神は、サタンの野望が打ち砕かれることを預言するのです。サタンの奴隷として、永遠の滅びに向かい、逃れる術がなかった私たち人間のために、主は救いの希望をここに記してくださっているのです。救いの希望を備えてくださったのです。ヘブル2：15に「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」とあります。私たちは「救いをいただくこと」が可能になったのです。そのことを主なる神は約束されたのです。

### A. 救いの約束

#### 1. 敵意の約束

創世記3：15「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」、最初のところに主は「救いの約束」を与えました。後半では「救世主の約束」を与えておられます。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。」と、ここに「敵意」のことが記されています。「敵意」が約束されたと言います。しかも、その「敵意」は主なる神ご自身が置かれるとあります。「敵意」とは「憎悪、憎しみ、対立」です。神はそのようなものがある人たちの間に置くというのです。

#### 2. 敵意の対象

その人たちはだれでしょう？敵意の対象としてここに記されているのは、「おまえ」と「女」、「おまえの子孫」と「女の子孫」です。この間に敵意が置かれるというのです。

##### 1) 「おまえ」と「女」

「おまえ」とはサタンです。「女」は罪を犯したエバのことです。罪を犯して、それが明らかになっ

て、神が彼らにのろいを告げるときに、サタンに対して父なる神は「おまえと女との間に…敵意を置く。」と言われたのです。エバはたった今、神に逆らってサタンに従う選択をしたのです。エバは神のことばよりもサタンのことばを信じたのです。彼女は神のみこころよりも自分の意志を優先しそれに従ったのです。悲しいことに、サタンは数々の祝福を約束しました。私の言う通りにするなら今以上の祝福を得ると。しかし、エバはその祝福を得ることはなかったのです。サタンはこのように言います。3：5「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」と。あなたには今よりもすばらしい祝福が訪れると言うのです。「あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、」と、不思議です。創世記1章には、私たち人間は神に似た者として造られたと記されています。他の動物とは違うのです。でも、このようなことばを聞いたときに彼女はすることばに心を傾けるのです。そして、その木の実を見上げると「その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。」とあります。

そして、ご存じのように二人はこの実を食べるのです。6-7節「それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。：7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」。サタンが約束したようにそこにすばらしい祝福があったでしょうか？彼らの目が開かれて見たのは、自分たちが裸であることです。2：15には「そのとき、人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった。」とあり、罪がなかったときにはそのような恥ずかしさはなかったのです。ところが、彼らが神に逆らうことによって、恥ずかしいという思いをもつようになったのです。ですから、私たちは善悪を知る代わりに羞恥心を得たのです。不従順なる罪に対するやましさを、罪悪感を得たのです。ですから、彼らは神の前に隠れるのです。考えてください。裸であることに気付くとは、今までの祝福がみな剥ぎ取られてしまったような感じがしませんか？なぜなら、彼らはエデンの園にいたのです。いつも神と交わることができたのです。創造主なる神と親しい交わりをもっていたのです。永遠のいのちをもっていたのです。ところが、その罪によってそれらを失って、彼らは死ぬものとなったのです。興味深いと思いませんか？サタンは一度も「死ぬこと」を語っていません。却って、「死なない」と言いました。これは今でも変わっていません。今でも多くの人たちは自分が死ぬ者だということを考えたくないし、考えないようにしています。なぜなら、私たちがもしかすると今日が地上における最後の日かもしれないと真剣に考えるなら、自分の明日に対して、永遠に対する備えを為すはずです。聖書は「神に会う備えをしなさい」と言います。しかし、私たちは「死ぬのはまだ先のことだ」と思います。まだ、したいことが山ほどある、神を信じるのは死ぬ目前になってからと。サタンは私たちが「死」について考えないようにと働き続けます。確かに、このときもそうです。

アダムもエバも神に逆らって罪を犯しました。罪を犯したエバに、そして、誘惑をしたサタンに神のメッセージが記されています。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。」と。神が言われたことは「サタンとエバの間に敵意を置く」です。エバが罪を犯すことによって、彼女はサタンの味方になりました。聖書のことばを使えば「サタンのこども」となったのです。その間には敵意はなくなったのです。その敵意は今度は神との間に置かれたのです。なぜなら、神を信じていない人たち、救われていない人たちは神の敵だからです。パウロがローマ書の中で教えている通りです。ということは、エバは罪を犯すまでは神の味方であり、神と親しい交わりがあったのです。罪を犯すことによって、神の敵となり、サタンと親しいものとなったのです。その誘惑をしたサタンに主が告げられたことは「わたしはおまえとエバの間に敵意を置く」です。何を言っているのでしょうか？エバの救いのことです。確かに、今罪を犯したけれど、主はエバを救うと言われるのです。救われることによって、エバは再びサタンの敵となり、神と味方、神の子どもとして親しい交わりをもつことができるのです。すごいことです。罪を犯して神はのろいを告げました。その後、女性に対する苦しみ記されています。その中にあって主が最初に言われたことは、罪を犯したエバに対して「わたしは彼女を救う」でした。神はエバに対してこのような約束をなさったのです。

ここに「敵意を置く」ということばがあります。「置く」とは「これまでの関係が変わること」を示唆しています。敵意がなかったところに敵意が置かれるのです。サタンと敵対していなかったものの間に敵意が置かれるのです。サタンとの関係が変わるのです。「エバは救われる」とそのことを主はサタンに告げるのです。「これで全人類は私のものになった。全人類はみな私に従う。」と、そのように勝ち誇っていたサタンに対して神は「とんでもない。まず、わたしはこのエバを救う。そして、再びあなたに敵対する者とする。」と、そのような約束を神は言われるのです。

## 2) 「サタンの子孫」と「女の子孫」

サタンの子孫とはだれですか？サタンは私たち人間と同じように子どもを産んでゆくのでしょうか？産みません。では、何のことでしょうか？イエスが「イエスを信じたと口で告白した人たち」と言って、

口で告白していながら実は救われていなかった者たちに対してこのようなことをおっしゃっています。ヨハネ 8 : 44 a 「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。」、つまり、イエスがここで人々に言われたことは「あなたたちは信じていると言うが実はそうではない。あなたたちの父は悪魔だ。サタンだ。」です。確かに、彼らはサタンの子どもたちです。そのことを言っています。つまり、主はここで「これから人類の歴史を見ていくときに、二つのグループに分かれる。」と言われるのです。ある人たちはサタンを信じサタンを愛しサタンに従い続けている人々です。それをサタンの子孫と言っているのです。しかし同時に、ある人たちはこのエバと同じように、神を信じ救いに与った人々です。だから、その人たちのことを「女の子孫」と言ったのです。救われていない人々、神に逆らっている神の敵と、神を信じ神の味方、神の子どもとなった人々、その区別をここで述べているのです。サタンの子どもたちと神の子どもたちが存在する、そのどちらかだと言うのです。そして、その間には必ずある種の対立があると言います。

悲しいことに、私たちが人々を憎むのではなく、人々から憎まれたりします。皆さんが熱心に信仰の歩みをしようとすればする程、皆さんがみことばに従っていこうとすればする程、皆さんを歓迎しない人たちがいます。そのことを言っているのです。サタンを愛して、サタンに喜んで従っている者たちは神を憎む者たちです。神を憎むだけでなく、神を信じる私たちを憎むのです。イエスはそのことを言われたのです。神は「わたしを信じ、あなたに敵対する者たちをこれからも起こしてゆく」と言われます。そして、私たちが今それを見ています。私たちの周りには、そのように神の恵みによって救いに与った者たちがいます。すごいと思いませんか？神はこの創世記 3 章のこの箇所から救いについてお話になり、まさに、救いは神のみわざであること、神の選びであることを教えておられるのです。

神がエバを選んだのです。神がアダムを選んだのです。神があなたを選んでくださったのです。そして、この救いへと神が導いてくださるのです。罪を犯して絶望の中にいたでしょう。自分たちの大きな罪が心を苦しめていたかもしれません。まだまだそのすべてを知らなかったかもしれません。しかし、サタンが言ってきたことが嘘であることが分かり、そして、自分たちがその祝福を失ったことに気付いたアダムとエバに対して、神は「あなたたちに救いがある」と言われたのです。救いの約束をこのようにして罪を犯した者たちに神はお与えになったのです。

## B. 救世主の約束

二つ目に私たちが見るのは、15 節の後半です。救世主の約束です。救世主が来るという約束をこの中に見ることができます。「彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」、お気づきになりましたか？主語が変わっています。15 節の初めは「わたしは、おまえと女との間に、」とあります。ところが、後半からは三人称単数の「彼」になっています。

### 1. 救世主である証明

この「彼」とはだれのことでしょうか？「彼は救世主である」とみことばは私たちに言います。主は、ここで彼が救世主であることの三つの証明を上げています。

1) 人である＝この救世主はエバの子孫です。彼は男性です。女の子孫として生まれて来るのです。

ですから、この方は神であるだけでなく、間違いなく人なのです。

2) サタンに勝利する＝「彼は、おまえの頭を踏み砕き、」と書かれています。サタンが死んでしまうということではありません。サタンが持っている力を打ち砕くということです。

3) 苦しみを受ける＝「彼のかかとかみつく。」とあります。サタンにかみつかれるというのです。あの有名なスポルジンは「この『かかと』とは、このお方の人間性を言っている」と言います。人間性、つまり、この方は人だと言っているのです。今私たちが見てきた通りです。そして、「かかとかみつかれる」というのは、このお方が大変な苦しみに会うということです。実際に、私たちがイエスの生涯を振り返ってみたときに、まさに、そのことを見ます。公の生涯を始められたときに、イエスは四十日四十夜サタンの攻撃を受けられました。約 3 年と数ヶ月の間、公の生涯でご自分がだれであるかを明らかにされてからのイエスは大変な迫害をお受けになりました。大変な孤独を経験されました。「人の子には枕するところもない」と言われました。大変な苦しみに会われた。そして、最後には、神の知らない者たちによって十字架に釘づけにされたのです。

確かに、このように見たときに、この創世記の中で教えられている救世主、これは私たちの主イエス・キリストを指しているように思います。これはまた後でもう一度振り返ります。

この救世主が大変な苦しみに会うと、そのことは預言者イザヤも預言していました。皆さんもよくご存じのイザヤ書 53 章に私たちはそれを見て取ることができます。預言者イザヤはここで約束の救世主について教えます。その「救世主は人である」と言っています。53 : 2 「彼は主の前に若枝のように芽生え、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。」、私たちと同じ人間だと言うのです。3 節から見て行くとこの救世主が大変な苦

しみを経験することが記されています。「:3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。:7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。:8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。:9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。」

救世主が来る、人としてこの世にお見えになる、大変な苦しみを経験される。しかし、この救世主は私たちに一番必要な罪の赦しをもたらしてくれると、そのようにイザヤが預言しました。

## 2. 約束の救世主

### 1) 預言の成就

そして、パウロはこの来られた救世主についてこのようなことを言っています。ガラテヤ4：4を見てください。「しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。」。パウロが言いたかったことは「この預言が成就した」ということです。確かに、創世記の中にありました。イザヤも救世主が来るということを私たちに教えてくれました。そして、パウロは「その救世主は来られた」と言います。「定めの時が来たので、」、神が定めておられたその時がやって来たと言うのです。「神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、…」とされた、人として生まれて来たということです。預言通りにこの方はお見えになったのです。

### 2) 十字架の死

そして、この主イエス・キリストは十字架の上で死なれたことをパウロは教えています。イエス・キリストが十字架で処刑されたときに、サタンはそれを見てほくそ笑んだことでしょう。「これで私の邪魔者はいなくなった」と。ところが、この十字架にはこんな計画があったのです。コロサイ人への手紙2：14-15「いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。:15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」、イエス・キリストの十字架、実は、あの十字架はあなたや私の身代わりであった。私たちを訴えている債務証書、つまり、私たちが罪を犯したがゆえに、その罪に対して請求されている債務証書をイエス・キリストはあの十字架で磔にしたと言うのです。つまり、あのイエス・キリストの十字架は、罪を犯しているあなたの身代わりであったと言っているのです。

そして、15節に「すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、」とあります。この「解除した」ということばは「武装を完全に剥ぎ取る」という意味です。つまり、戦いに負けた敵の武器や武具を剥ぎ取る時に使われることばをここで使うのです。何を言いたかったのでしょうか？パウロは主イエス・キリストはサタンや彼に仕える悪霊たちのその力を剥ぎ取ったと言うのです。主イエス・キリストは彼らに完全に勝利されたと言うのです。彼らの武器を取り除いたと言うのです。そして、さらしものにして、凱旋の行列に加えたのです。パウロがⅡコリントで語った勝利の行列のようです（Ⅱコリント2：14「しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。」）。

前回見たように、戦いに勝利したとき、ローマの将軍はこのパレードを行ないました。そのパレードの中に捕えられた敵がいた訳です。敵の親、家族、部下、国民が捕虜として鎖につながれて、勝利を祝うローマの群衆の中を行進する、その有様をパウロはここで描いているのです。もう彼らは敵でなくなった、彼らは捕らえられてその武器は剥ぎ取られてしまった。主イエス・キリストはあの十字架によってこのサタンに勝利なさったのです。

### 3) 死からの復活

そして、皆さんご存じのように、主イエス・キリストはその死からよみがえって来ることによって、敢然とこのサタンに対して勝利なさったのです。ローマ人への手紙16章で、パウロはこのようなことを語っています。20節「平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます。どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。」、いつのことを言っているのでしょうか？先のことです。後に、主イエス・キリストはこのサタンを完全に踏み砕くのです。主イエス・キリストのよみがえりはそのことを明らかにしたのです。主イエス・キリストが死からよみがえって来ることによって、彼はその死に、サタンの力に勝利したのです。そして、その勝利は私たち信じる者に与え

られるのです。私たちはこの救世主によって、サタンの束縛からその力から自由を得ました。この救世主によって、私たちはどうすることもできなかった永遠の罪のさばきからの解放を得ることができました。ヘブル人への手紙の著者はこのように言っています。2：15「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」と。

旧約聖書のみことばは私たちに「救世主が生まれる」ということを預言しました。新約のみことばは私たちに「救世主が生まれた」ということを明らかにしました。私たちが待望していた救世主、私たちにはどうすることもできない罪から私たちを救い出してくださる救世主、どうすることもできないこのサタンの力に打ち勝って、勝利を私たちに与えてくださる救世主、その方の誕生がもうすでに成されたのだとパウロは教えたのです。

なぜ、この救世主によってこのような勝利が与えられるのか、もう一度、イザヤ書のことばを思い出してください。53：5「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために碎かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」、どうして私たちに勝利が与えられたのでしょうか？それは今見て来たように、イエス・キリストの十字架はあなたや私の身代わりだったからです。イエス・キリストがあなたの受けるべきさばきを代わって受けてくださったからです。この身代わりの死ゆえに、このイエス・キリストを信じる一人ひとりに罪の赦しを与えられるのです。「彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」と、イエス・キリストの十字架によって、そして、その死の三日後のよみがえりによって救いは備えられました。そして、私たちイエス・キリストを信じる者に、神はこの救い、この勝利を約束してくださったのです。

創世記3章の中で、神は罪を犯したアダムとエバに救いを約束なさいました。救いは神が与えるものだからです。そして、救い主が来るということ約束しました。この宣言は、「勝利を得た」とほくそ笑んでいたサタンに対して、「サタンよ、おまえは勝利していない！わたしがおまえの力を打ち砕く！おまえは被造物だ。わたしが神なのだ。」ということをおまへに約束したのです。どんなにサタンが強くて、どんなに巧みに人々を惑わして誘惑し続けたとしても、創造主なる神には及びません。この神が最後には勝利を得られるのです。神は私たちに希望をくださいました。救いという希望です。罪をもって生まれた私たちに、救いという希望を与えてくださった救世主です。この救世主によって、どんな罪でも赦される、どんな罪人でもその罪が赦されて生まれ変わって新しい歩みを為すことができるのです。神の敵であった私たちが神と和解し、神の子どもとして生き、そして、サタンの子どもであった私たちがサタンの敵として新しい歩みを為すことができるのです。私たち人間に、私たち罪人に、神はこのようなすばらしい希望をくださった。そして、勝ち誇っていたサタンに神は絶望を突きつけたのです。サタンに勝利はないのです。彼にあるのは永遠の地獄だけです。そこにあって彼は永遠のさばきを受けるのです。そのことが神によって高らかに宣言されたのです。「この救世主はおまえの頭を踏み砕く。その力を完全に打ち破る。どんなにおまえが彼に苦しみを与えても、わたしが勝利するのだ。」と、そのようなすごいメッセージを神はこのエデンの園でなされたのです。

罪の中にあって、悲しみの中にあった彼らに対して、神はすばらしい希望のメッセージをお与えになったのです。感謝ではありませんか、皆さん!!この約束の救い主は来てくださったのです。そして、救いを約束した神はこの救いをあなたにも与えてくださったのです。だから、私たちは高らかにこの救い主の誕生をお祝いするのです。約束の救い主は来てくださった。この方こそが私たちの希望であり、私たちの誇りです。違いますか？信仰者の皆さん！この方の恵みによって私たちはこの救いに与ったのです。だから、私たちは声を高らかにして、この救い主を誉め称え続けることです。声を高らかにして、この救い主のすばらしさを伝え続けていくことです。救い主、約束の救い主があなたを救うために来てくださった。その救い主を心から感謝しましょう。

#### 《考えましょう》

1. クリスマス、また、ノン・クリスマスに対するサタンの悪巧みを挙げてください。
2. 救いはだれのみわざですか？
3. このみことばから、主についてどのようなことを学ばれましたか？
4. その主に対して「私は今日からこのように歩んで行きたい」と決心したことを記してください。